

# つばさ2組 国語科学習指導案

場 所 つばさ2組教室

授業者 田中 淳子

- 1 単元名・教材名 6年 読み取ったことや感じたことを表現しよう 「この絵、私はこう見る」  
4年 読んで考えたことを話し合おう 「ごんぎつね」  
2年 分かりやすくせつめいしよう 「おもちゃの作り方」

## 2 指導の立場 (児童の実態と指導観)

在籍する5名(6年2名,4年2名,2年1名)の児童は、通常学級と同じカリキュラムで学習を進めている。自分の思いをうまく言葉に表すことが苦手という課題が、全員にある。学級では、声を出すことや自分の言葉で話すことを大切にしている。個々の障がいとの関わりで学習がうまく成立していかないこともあるが、場面々でのソーシャルスキルトレーニングを活用し、改善を図っている。通常学級で生活できるようにという保護者や本人の願いが、近い将来実現できるように日々の訓練を積み重ねていきたいと考える。

【6年】1学期に町のよさを伝える「パンフレット」作りをし、2学期になってからは、「未来について」自分の考えを伝える意見文を書くことを学習してきた。ここでは、前の単元「鳥獣戯画を読む」で学習した「絵を読み解いていく筆者のものの見方を学び、自分のものの見方を広げていくこと」を生かして、「絵から読みとったこと、感じたこと、自分なりに意味付けしながら書くこと」をねらいとしている。コミュニケーション能力育成の一環として、自分のものの見方や感じ方に自信がもてるように励ましていきたいと考える。

【4年】本単元では、「会話や心情表現、行動から人物の性格や気持ちを読みとること」「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いがあることに気づくこと」ができるようにさせていく。自我が芽生えるこの時期に、「ごん」と「兵十」の心のすれ違いが生み出す結末までの過程で、自分の心の奥をじっくり見つめさせたり想像力を高めさせたりしながら読み味わわせたい。そして、今後の交流学习での自分の気持ちを伝える努力につなげていく機会とする。

【2年】本教材「分かりやすくせつめいしよう」は、前の単元で学習したことを活用しながら、さらに生活科や図工科と関わらせながら学習を進めていく。特に重点を置くのは、「手順」である。説明書を読んで、友達に作ってもらうというめあてをもたせることにより、より分かりやすい手順の書き方を身につけさせていく。時間の順序や主語と述語の呼応を意識して書くことや自分が作業したことを的確に表す言葉を選んで使うことができる力を身につけさせていきたい。

## 3 単元の目標

- 【6年】・絵に興味をもち、進んで教材文を読もうとしたり、絵から読み取ったことを伝え合おうとしたりすることができる。 【読(1)ア】  
・絵から読み取ったことや感じたことを、読者に伝わるように表現や構成を工夫して書くことができる。 【書(1)イ】
- 【4年】・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像して読むことができる。 【読(1)ウ】  
・文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点や相違点に気づくことができる。 【読(1)オ】
- 【2年】・説明の順番を考え、言葉のまとまりに気をつけながら文章を書くことができる。 【書(1)ウ】  
・説明書を書くために、必要となる事柄を集めることができる。 【書(1)ア】

#### 4 単元の指導計画

##### 【6年】(全6時間計画)

過程	時	主な学習活動	教師の手立て	児童に付けたい力
一 次	1	・学習計画を立てる。 ・3枚の絵から紹介したい絵を選び、読み取ったことや感じたことを書き出す。	・「何が」「どのように」描かれているかを読み取る視点を提示し、選んだ絵から読みとったことや感じたことを出させる。	・選んだ絵の紹介文を書き、図書館に掲示して全校の人たちに見てもらおう活動に意欲をもつ。
	2	・自分が選んだ絵の紹介文をどの順序で書くか決める。	・書くときに気をつけることを確かめさせる。	・紹介文の完成までの計画を立てる。
二 次	3	・自分が選んだ作品の紹介文を書く。	・「鳥獣戯画」で学習したことを活用させる。	・学習したことを思い出し、紹介文に取り入れる。
	4	・表現を工夫して、文章に表す。	・書き出し、見る場所や見る方法を表す表現を取り入れさせる。	・文末表現のしかたを工夫する。
三 次	5	・書いた文章を読み合い、互いに助言しあう。	・作品の見方の相違点や共通点、文章の表現の工夫について感想を交流させる。	・友達の文章について、内容と表現の面から感想を話す。
	6	・交流学級でも感想を聞く。		

##### 【4年】(全12時間計画)

過程	時	主な学習活動	教師の手立て	児童に付けたい力
一 次	1	・全文を通読し、初発の感想をもとに単元の学習課題を立てる。	・題名や挿絵から物語の内容を想像させ、物語に関心をもたせる。	・物語に関心をもち、初発の感想を百字以内で書く。
	2	「ごん」と「兵十」の行動や気持ちの変化をとらえ、感じたことや考えたことを話し合う。	・段落毎に「ごん」と「兵十」の行動や気持ちの変化を読み取り、詳しく読んだことをもとに話し合うことを知らせる。	・新出漢字や難語句の意味を調べ漢字や語句を正しく理解する。
二 次	3	・一場面を読み、物語の設定や「ごん」の置かれている状況などを読み取る。	・「いつ、どこ、だれ、何」を文章から読み取らせる。	・一場面を正しく音読し、「いつ、どこ、だれ、何」を文章から読み取る。
	4	・一場面を読み、「ごん」と「兵十」の行動や気持ちを読み取る。	・行動や気持ちが分かる叙述にラインを引かせ一人読みをさせる。	・「ごん」と「兵十」の行動や気持ちが分かる叙述にラインを引かせ一人読みをする。
	5	・二場面を読み「ごん」の行動や気持ちの変化を読み取る。	・心内語や行動描写や情景描写に着目して「ごん」の気持ちを考えさせる。	・挿絵を手がかりに、情景から「ごん」の気持ちを考える。
	6	・三場面を読み「ごん」の行動や気持ちの変化を読み取る。	・二場面の後悔する気持ちから、どんな気持ちへと変わっていったかを考えさせる。	・「ごん」が「いいこと」と思った行動が裏目に出てしまったことに気づく。
	7	・四・五場面を読み「ごん」の行動や気持ちの変化を読み取る。	・二人の会話の間にある「ごん」の行動に着目し、一緒に会話を聞いているような臨場感を味わいながら、気持ちを考えさせる。	・「ごん」の償いの気持ちが、「兵十」に伝わっていないことへの悲しさや寂しさに気づく。
	8	・六場面を読み「ごん」の行動や気持ちの変化を読み取る。	・五場面で「引き合わない」と思った「ごん」がなぜ償いを続けたのかを考えさせる。	・兵十の驚きの強さと目をつぶったままうなずく「ごん」の気持ちを倒置表現や情景描写から考える。

三 次	9	・「ごんぎつね」を読んで感じたことや考えたことを話し合う。	・学習したことを振り返るために、全文を音読させる。	・正しく音読することができる。
	10	・読んで考えたことをもと「続き話」か「ごん日記」のどちらかを書く。	・活動を選び、理由と伝えたいことと中心を書かせる。	・詳しく読んで分かったことや考えたことを百字程度にまとめて書き、初発の感想とくらべる。
	12	・ぎつねの出る本を読んで感想を書き交流する。	・図書館で調べる。	・続き話か「ごん日記」を書く。 ・友達に本の紹介をする。

### 【2年】(全6時間計画)

過程	時	主な学習活動	教師の手立て	児童に付けたい力
一 次	1	・「おもちゃの作り方」の教材文を読んで、学習の見通しをもつ。 ・生活科や図工科で作った作品の中から題材を選ぶ。	・説明書を書く目的意識・相手意識をもつことができるようにする。 ・自分が選んだおもちゃを作るためには、どんな材料や道具が必要か作品をよく見て書き出すことができるようにする。	・今までに作ったおもちゃを思い出す。  ・作ったときのことを思い出しながら、工夫や苦労したことをメモする。
	2	・「けん玉の作り方」から「分かりやすい説明のしかた」を見つける。	・前単元で使った資料を活用し、分かりやすい説明の仕方がどのように使われているかを確かめさせる。	・「しかけカード」で学習したことを思いだし、分かりやすい説明の仕方をを見つける。
二 次	3	・おもちゃの作り方の説明書を分かりやすく書く。  ・作り方や遊び方の説明を書く。	・それぞれのまとまりに書くことを整理させる。まとまり毎のプリントを準備して、書くことが分かるようにする。 ・おすすめの遊び方を考えさせる。	・教材文で見つけた分かりやすい説明の仕方を活用して書く。 ・工夫した使い方やおすすめの遊び方を考える。
	4	・自分が書いた説明書を読み返す。  ・説明書を完成させる。	・チェック表をもとにして、仲間に教えてもらったことをメモさせる。 ・短冊カードを書き直し、説明文を完成させる。	・順序を表す言葉や絵や写真の位置など直したいところを見つける。 ・書いたものを読み直し句読点や段落などに気をつけて書く。
三 次	5 6	・自分が書いた説明書を読み返す。  ・説明書を完成させる。	・チェック表をもとにして、仲間に教えてもらったことをメモさせる。 ・短冊カードを書き直し、説明文を完成させる。	・順序を表す言葉や絵や写真の位置など直したいところを見つける。 ・書いたものを読み直し句読点や段落などに気をつけて書く。

## 5 本時のねらい

- 【6年】・自分が選んだ作品の紹介文を相手によく分かるように表現を工夫して書くことができる 【書(1)イ】  
 【4年】・うなずいた時のごとと火縄銃をとり落とした時の兵十の気持ちを読み取ることができる。【読(1)ウ】  
 ・六場面を兵十の気持ちの移り変わりに気を付けて音読することができる。 【読(1)ア】  
 【2年】・分かりやすい説明のしかたを使いながら、まとまりや順序を考えて、おもちゃの作り方を書くことができる。【書(1)イ】

## 6 本時の展開

### \* 人権教育の観点

過程	学習活動・内容			予想される内容	指導の手立て・支援
はじめ	<p>【6年】</p> <p>1 「お口の体操」をする。</p> <p>2 本時の課題を確認する</p>	<p>【4年】</p> <p>・六場面を読み撃たれた後の「ごん」の気持ちを「兵十」の会話や情景描写から読み取ろう。</p>	<p>【2年】</p> <p>・分かりやすい説明書を書こう。</p>	<p>・口の開け方を意識させる。</p> <p>・課題が分かる。</p>	<p>本時に関係のある言葉の練習をさせる。</p> <p>共通 6年 4年 2年</p>
	<p>3 何をどのような順序で書くかを確かめながら下書きをする。</p> <p>4 友達や先生にアドバイスをもらう。</p>	<p>3 五場面で「引き合わない」と思った「ごん」がなぜ償いを続けたのかを考える。</p> <p>4 兵十の驚きの強さと目をつぶったままうなずく「ごん」の気持ちを倒置表現や情景描写から考える。</p> <p>・書いた文章を読み返す。</p>	<p>3 それぞれのまとまりに書くことを確かめ 教材文を活用しながら下書きをする。</p> <p>4 まとまりごとのプリントに下書きをする。</p> <p>・作った文をノートに書く。</p> <p>・作った文を声に出して読む。</p>		
なか	<p>5 アドバイスを次時の推敲に生かせるようにメモを取る。</p> <p>6 次時の活動を知らせる。</p>	<p>5 「ごん」の行動や気持ちの変化を俳句で表す。</p> <p>6 次時の活動を知らせる。</p>	<p>5 作った文を声に出して読む</p> <p>6 次時の活動を知らせる。</p>	<p>学習後の感想を話す。</p>	<p>発表する時に 分かったことやがんばったことを話すように確かめる。</p>
おわり	<p>・自分が選んだ絵の紹介文を、相手に分かるように表現を工夫して書いている。 【書(1)イ】</p>	<p>・うなずいた時のごとと火縄銃をとり落とした時の兵十の気持ちを読み取っている。 【読(1)ウ】</p>	<p>・まとまりや順序を考えて、おもちゃの作り方を書いている。 【読(1)イ】</p>		<p>* 言葉を手がかりに主人公の気持ちを豊かに想像したり 相手に分かりやすく伝えるために表現したりする力を育てる。 (自己啓発力)</p>
評価規準					